

1. 基本情報

評価対象年度 ( 令和3 年度)

施策コード	211	施策名	高齢者の支援
将来像	2	健幸でともに支え合うまち(「支え合い」の分野)	
まちづくりの基本目標	21	ともに支え合って生活するまち	
担当部	生涯健康部	担当課	介護保険課

2. 施策の方向

10年後の姿	医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステムが構築され、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしています。		
施策の方向性	1	高齢者が安心できる暮らしを支援します	
	2	高齢者のいきいきとした暮らしを支援します	
	3	医療と介護の情報共有、情報交換ができるしくみをつくります	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和3年度決算額
地域福祉総務事業	1、2	福祉総務課	5,116
敬老記念事業	2	福祉総務課	3,238
高齢者住宅事業	1、2	福祉総務課	45,815
老人いこいの家運営管理事業	2	福祉総務課	7,217
地域包括支援センター運営管理事業	1、2、3	介護保険課	1,330
介護人材育成定着支援事業	1	介護保険課	231
介護保険等推進事業	1、2	介護保険課	8,834
介護予防・生活支援サービス事業	1、3	介護保険課	1,578
介護予防・生活支援サービス給付事業	1、3	介護保険課	167,732
一般介護予防事業	1、2	介護保険課	13,773
包括的支援事業・任意事業	1、2、3	介護保険課	115,506
総事業費(施策の合計)			370,370

4. まちづくり指標

指標情報				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	地域包括支援センターの機能の認知度		目標値	62.5	62.5	65.0	65.0	70.0
	説明	地域包括ケアシステムの中核機関であるため	単位 %	実績値	58.0	58.0(※1)			
	抽出方法	介護保険事業計画策定に係るアンケート		達成率	92.8%	92.8%			
②	名称	シルバー人材センター会員目標就業実人員数		目標値	760	773	780	800	843
	説明	技能や経験を生かした働く機会の確保や社会参加の尺度	単位 人	実績値	693	674			
	抽出方法	当該センターの事業報告		達成率	91.2%	87.2%			
③	名称	高齢者が地域で見守られて安心して暮らすことができると思う人の割合		目標値	50.0	50.0	50.0	55.0	60.0
	説明	高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本目標	単位 %	実績値	41.1	41.1(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	82.2%	82.2%			
④	名称	高齢者が地域で自分らしくいきいきと暮らしていると思う人の割合		目標値	60.0	60.0	60.0	65.0	70.0
	説明	高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本目標	単位 %	実績値	44.9	44.9(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	74.8%	74.8%			

※1 令和元年度実績値である。

※2 ③④抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和3年度実績に対する)

評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価)	維持	<p>●認知症対策 チームオレンジの立ち上げに向け、ミーティングを6回開催し、活動拠点や活動内容について検討した。内容が具体的に becoming につれ、チーム員のモチベーションも向上してきている。令和4年度から中清戸に拠点を置き、活動することとなった。認知症の方本人やその家族も参加することとなり、地域での見守り効果が期待できる。</p> <p>●高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 令和3年12月より事業を開始し、通いの場(シニアクラブ、サロン)へのアプローチとしてフレイル予防出前講座を4回実施した。参加者アンケートのほか、令和4年度に東京都健康長寿医療センターと連携し、事業評価の方法を検討する。 また、健康状態不明者の実態把握として、KDBシステムを活用し、医療等未受診、介護サービス未利用、生活保護未受給、包括支援センターとの関わり無しの方22名へアンケート調査を送付した。返信がない方や返信内容が気になる方へは、令和4年度も引き続き包括支援センターと関わりを持てるよう注意していく。</p>

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和3年度からの変更点	長引くコロナ禍で、高齢者のフレイル進行が心配される。行政の手続きを含め、様々な手続きがデジタル化している。デジタルデバインド対策を講じる必要がある。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	<p>施策を進める上での課題 市内を3区域に分割して活動している第2層協議体について、地区により活動開始時期や地域資源が異なるため、生活支援コーディネーターと連携しながら継続して支援していく必要がある。 また、地域交流の場の充実では、既存のサロンに加え、生活支援コーディネーターが新たなサロンや10の筋トレ実施団体の立ち上げ支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症により影響が出ている。</p> <p>課題に対する令和5年度以降の取組 生活支援コーディネーター・第2層協議体を中心とした「支え合いの地域づくり」の推進、市民の自主グループによる活動拠点づくりを行う。また、サロン活動やフレイル予防の取組の促進では、適切に感染症対策を講じたうえで、生活支援コーディネーターと連携しながらサロンや10の筋トレ実施団体の立ち上げや運営支援を行う。</p>
②	<p>施策を進める上での課題 介護保険業界において人材確保が困難な状況にあり、市内事業所でも最小限の人員で事業運営にあたっている。今後、多様化・増加する介護サービスに対応するには、介護人材の確保及び定着支援が必要である。</p> <p>課題に対する令和5年度以降の取組 第8期介護保険事業計画(令和3年度～令和5年度)の施策目標の一つに「介護人材の確保及び質の向上、定着支援」を掲げている。具体的な施策として、令和4年度に介護職員(永年勤続)表彰式を実施する。表彰されることによって市民表彰と同様に長く介護職を続けることに誇りと達成感をもってもらえることが期待できる。このことを踏まえ、他に介護人材の確保や定着に有効な施策がないか施設長会及び市内事業者と引き続き検討していく。</p>
③	<p>施策を進める上での課題 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、介護保険施設、事業所の業務継続や高齢者の健幸維持等に取り組む必要がある。</p> <p>課題に対する令和5年度以降の取組 介護保険施設、事業所への補助やサポート体制の構築及び介護(予防)サービスにつなげていない高齢者の実態把握に努める。具体的な施策としては、以下の取組を実施する。 ・介護保険事業所へのPCR検査費用補助 ・在宅要介護者の受入体制整備事業 ・介護施設等の職員相互派遣の仕組みづくりの検討 ・アウトリーチ事業(サービスにつなげていない高齢者の実態把握) ・医療介護の連携推進協議会(医療と介護の連携による切れ目のない支援)</p>
④	<p>施策を進める上での課題 コロナ禍において、感染拡大防止のために国は非接触型の新しい生活様式を推奨している。しかし一番重症化し易い高齢者がスマホ等ICT機器を活用できないために、新しい生活様式に対応できず感染のリスクにさらされている。</p> <p>課題に対する令和5年度以降の取組 令和3年度より、スマートフォンを触ったことのない方向けに、初歩的なスマホ教室を行い人気を博している。今後は市の電子申請を使ったがん検診の申し込みや、アプリを使った粗大ごみの申し込み等行政手続きを実際にスマホで出来るようになるよう応用編の講座を実施する。</p>